



関西学院大学リポジトリ

Kwansai Gakuin University Repository

2020年度活動報告 CJP授業 : 漢字・語彙7

著者	鈴木 由香里
雑誌名	関西学院大学日本語教育センター紀要
号	10
ページ	66-67
発行年	2021-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10236/00029364

2020 年度活動報告 CJP 授業：漢字・語彙 7

鈴木 由香里（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

本授業はレベル6以上の学生を対象として行った。1週間当たりの授業コマ数は週1時間である。クラス目標は上級後半レベルの漢字語彙の意味を理解し、使えるようになること、そして、これまで学んだ漢字語彙を分類・整理し、使い分けができるようになることである。授業形態は zoom を用いた同時双方向性の授業を行った。使用教材として N1 レベルの漢字・語彙の問題を使用した。毎回、授業の前に問題を解いてくることを予習とした。授業時間は予習箇所で見えないところを質問させ、教員がそれに答えるという形式を用いた。また、テキストにある類義語（4語程度）の説明を毎回ひとりの生徒にさせた。説明形式としては ppt を作ってもらい、それを画面共有して発表してもらった。既習の内容の定着を測るため、次の授業時間の冒頭にクイズを行った。

2. 授業内容

授業内容の順番としては、宿題の解答、宿題の範囲のクイズ、それから当日に学習する語彙の類義語の発表（1人/1コマ）、その後、その他の語彙の説明を、問題解説を通して行った。当日解説を行った語彙の問題プリント（20問程度）を宿題とした。

授業時間では、予習として、授業の範囲の問題を解かせているので、それについての答え合わせや質問を受け付けた。今回は全員が台湾人留学生だったので、日本語と中国語の同形意義語について重点的に解説した。留学生の中には中国語の意味のまま解釈している生徒がいるので、こちらで事前にある程度、同形異義語について調べて解説を行った。また、教員側から一方的に解説を行うだけではなく、類義語（4つ）の意味の違いや例文、またはそれらの意味が理解できているかどうか測る問題を含んだ ppt を作成してもらった。

3. 成果と今後の課題

前学期までは、学習した語彙を新聞記事のタイトルに含んだ記事を選ばせ、それを全体でシェアし記事の内容を要約してもらおうというタスクを行っていた（1人/1コマ）。しかし、このタスクでは問題として挙げられている類義語の使い分けを習得することは困難であると感じ、よりテキストで学習した類義語の違いや使い分けを習得できるよう、テキストで学習した類義語についての発表に変えた。新聞記事の内容を発表させていた時は記事内容を理解するのに時間がかかったり、テーマについて話題が広がったりと、

授業時間内で学習する語彙から焦点が外れることが多かったので、本学期の方針のほう
が、学習語彙に焦点を当てられるので良かったのではないかと思います。

今後の課題であるが、生徒の発話よりも教員の解説時間のほうが長くなることが多い
ため、この辺のバランスをどのように取っていくべきかということだと考えられる。